

# 平塚市ビジネスケースプロジェクト



## 株式会社トノックス



### 東海大学の学生レポートから一部抜粋！

株式会社トノックスは殿内社長を軸に一際注目される自動車業界の中で昭和25年から現在にいたるまで一風変わった製品を手掛ける企業である。また、創業以来60余年の歴史の中で身に付けてきた技術力・経験・知識を活かし、これからもなお日本のインフラを支え、より良いものにし自動車業界のみならず国から期待され必要とされる企業に成長し続けている企業でもある。

トノックスが手掛けている製品は一般車両ではなく、特種車や特装車など普段あまり消費者が見かけることのないニッチな製品を取り扱っているため、一般的な自動車工場などと異なり生産面では量産ではなく非量産体制で製造を行っているのが特徴的である。さらに、インタビューなどを通していく中でトノックスのお客様は多種多様な業界にあり、その理由として実際にトノックスに足を運んで見ると、トノックスでは「お客様の信頼のパートナー」を基盤に製造しているため多くのお客様との取引関係を保つことができている。

また話を聞く中で、株式会社トノックスでは取引先の顧客の課題を解決するために、製造面や技術面で工夫を凝らしている。例えば・・・後略 鈴木新之典



平塚市の工場地帯にあり、広いなというのが第一印象。

話を聞き、創業時からずっと自動車の車体や部品などの生産をメインに行っていて、その傍ら特架車や輸入車の点検などを行っていた。

2000年代初頭からの自動車業界のグローバル化や多国籍化による構造の変化に応じた、ビジネスモデルの転換という道を模索しつつあった。将来の方向性を探りつつ、グループ会社等も含め事業形態の多様化を図ってきている。

量産から非量産への転換だ。

しかしこの非量産型には難題がある。

・・・中略・・・

極めてニッチな産業であり、職人が独り立ちするまでは10年かかるという。グローバル展開を進める自動車業界のヒエラルキーから半歩離れ、国内の需要に応えることに決めたトノックス。海外展開は、その国の政府が必要としなければいけないという。

今年は採用人数も大幅に増やし、将来への期待も高まる。量産から非量産になったことで離職率も下がったという。日本の生活や安全を支える車を製造しているやりがいは大きいのだろう。まだまだ知名度は低いですが、日本という国には必要不可欠な会社であることは間違いない。 丸山寛仁



前略・・・

現在の株式会社トノックスが展開する事業は①特装・特架車両の設計開発②製作フォークリフト・建設機械キャビンの設計開発、製作③輸入車の出荷前納車点検整備④特殊塗装、樹脂塗装であるが創業当時は自動車会社の委託を受け鉄鋼製車体の製造に携わり、完成した車体は隣接された自動車会社に納品していた。高度成長期によるモータリゼーションの流れを受けて自動車の組立製造の仕事が増えていった。

・・・中略・・・

土木業界と輸送業界の2つの業界に所属をし、情報収集を行い非量産の利益の最大化を追求している。現在は国内中心のビジネス展開を決定しており、各事業の売上比率は年によって変化する。経営会議では短期的なものから長期的なスパンを決定しているが翌年におけるビジネス展開を1番に重視している。1台1台、生産が決まるまでの過程が長いので単価は高額になるが、長年のノウハウ、失敗経験から本当に顧客が使いやすく、満足できる製品の実現をしている。・・・後略

角田彩夏



前略・・・

株式会社トノックスは昭和23年横浜市において創業された自動車製造会社である。現在は独立企業として確立し、ワンストップサービスという提案から設計・開発、そして製造・塗装を一貫して行いお客様ニーズにしている、しかし創業当初は自動車会社から委託された仕事を行うといった体勢であった。お客様ニーズに応え続けるには、変化対応力が求められ柔軟性が大切だ。そういった中でトノックスは、市場のニーズを探る方法としてメーカーに情報提供を委託、直接お客様と面会して生の声を聞く方法、同業他社の分析を行うなどして日々の変わりゆくお客様ニーズにしている。さらに、工場内には多種多様な自動車や自動車部品が設けられ、お客様満足に重点を置いている。・・・後略

山田祐輝



前略・・・

一年の仕事の流れとしては、上半期は計画を立てて下半期に生産を行う。計画から生産までを行うので、さまざまな問題点を、一貫体制のもとに、各現場からのさまざまな課題やお役様からの直の声を反映して改善しつづけ、創意工夫を積み重ねていくので、対応力の高さを実現していくことが出来る。工場内にはレイアウトを自由に変えられるような仕組みが施されており、効率よく作業を進められるようになっている。・・・後略

國井湧



前略・・・

現在は独立しており、ワンストップサービスで製造できる事が特徴で設計・開発から塗装、製造までを可能にしている。トノックスの強みとして「歴史の中で培われたクルマづくりへの姿勢」「企画・設計から製造、整備まで一貫体制」「それぞれの分野を持った“プロフェッショナル”が集う」の3つが挙げられる。長い歴史の間に蓄積されたくるまづくりの技術や経験が蓄積された企業である。

・・・後略

樋田稔



仕事をしていく中で、大きい失敗は基本的に無い。失敗をそのままにせず、次のためのステップの肥やしにし、常に先に向かって進み拡大していくことを心掛けている。

現在、トノックスでは、国内における特装車の設計製造やインフラ設備の点検業務などに注力している。将来的には海外での需要も取組んでいきたいが、当面の間は国内での主たる事業基盤を強固なものにできる様にしている。

・・・中略・・・

生産については、基本的にオーダーメイドなので、毎回企画書からの段階で打ち合わせをしていくので、とても時間がかかる。

基本的に技術者なので、10年で一人前と考えている。技術者から技術者への技術の伝承が重要である。

野中謙次



東海大学 政治経済学部経営学科 亀岡研究室